



毘西事或問

下

ヤ 9
1137
2





醫事或同卷下

外澤佐膳

大八田村

一或同曰今此名醫朝鮮人參とを氣血
 補ふといふ志は氣血を拍つとくく療治
 志ありふといふん
 昔曰元氣ハ天地根元の氣なりて人乃胎
 肉らふふやどる時ふけ造化の司しふ人かと
 以つけつきつりあそひは氣虚とする時は
 死ぬるなりと長短を大ふゆるとん
 けあり天子諸侯よりとんを公のまふ

醫事或同

卷下



たりきふりありんを草根木皮と云
 氣血補助と云ふを得んや古語曰攻病
 以毒藥養精以穀肉果菜とありといふ
 業として精と云ふといふ事と云ふは仲
 系も人參ハ心下の痞鞭と治といふ
 此のふ氣血補助といふ事ハ氣血
 補助といふ疾醫絶く遠く後世の人若
 説けり唐の世といふ事ハ從授けり
 孫思邈が千金方より人參を記すを茯苓



といふ事ハ所謂といふは從ありまふといふ
 といふ人參ハ元氣と云ふ事ハといふ事
 此のなり非人ハ茯苓ハ元氣と補助といふ
 や御ふ後世乃醫家好んで元氣は
 といふ事ハ氣積或ハ氣虚と云ふ氣乃
 事といふハ内經より云ふなり其内經を
 後世の偽作と云ふ事ハ古語ハあり
 より元氣ハ天地の目と云ふ人の心
 ありあり故に聖人よりいふ事ハ

さふり又人參元氣成書に云くは
唐の甄權けんとて神なり洋ふ菜微い
辨わる也あふ思い余あ今い心い下い痞い積い
物い解い人い參いと用いゆれいも其い毒い治いをい

本邦吉野人參と痞積いを用いひて効いあり故いも
余いハ和參いと用いひて物い解い參いと用いひては
けりいと昔いを和漢いといふ人參い味いひ苦い
くいふ本草い從い自い少い雷い公い相い君い味いひ苦い
といなり日本いにいく

人參の味ひ
去地いより或
黄壤いといて
はれたりあり
脚い在い心い下い痞い積い
に用いひて切い
一い故いに疾い速い
其味いの人參
と用いひてい
なり

天曆帝ハ朝源順すけのりの和名抄わななごより人參の和名
くまののりあり楚膽しよたんの味あじひ苦いれた也い
くまのりを名付いたりなり物い解いれ今いハ朝
解い人參いの味あじひ苦いくい楚い胆いの味あじひ苦いなりい楚い胆い
といて其いくいついふい仍いなり用いゆいるいは
本邦の人參情いく必い智いはるいとい本い味いと
くいくいふい時いハ業い効いふい一い具い又い積い氣い字い虚い
けりいはいついくいいいんいといないれいハ氣いとい積い
なれりあり何いめいるい物いありい皆い字い

以り人生く病る時を氣あり死しんを其
 氣後を是大地自然しんを形なく造化乃
 司る所也人の積つるものふあはれ毒を
 形ある物なり故に積毒となすを
 積氣と言ふるを以て火を爐といふ
 積るは火氣の人の多しを積るは火なり
 是火の形あり火氣の形なしなり故に
 元氣補深乃り醫者の多し及ぶふあは
 ると云ふ人

一或問曰毒業めく病毒解して病を治
 せんを以て死あはれく死するは人あり
 といふ
 答曰さや好しありては扁鵲仲景も
 やふたぬけり余數十年疾醫れり其
 信し毒れを以て視る方を變化的の中
 とる此術もふゆく心は意は今も万人に
 療治するふ何程危く病人もくも毒業
 と用ふるふは瞑眩と云ふ毒あふ減する

とあることより考へしに、
すく用ひし終ふ全候して、
ふたり泣のあれは半好し、
ても痛毒をさし又發する
時化乃醫考ふたの、
りて考へ後劑めく、
比補茶めて、
す包するとして、

動くすい、
いより志、
あれ、
知り、
と古人、
し今、
毒業、
富、
嘉、

乃此と用ゆる事多し是としてんまは
 あとの何れなり合点なれども療治の端
 なる由大のさくしきりて見くらりあは
 けきぬ控授をまにもしきりて病毒乃
 是らまて毒茶と用ひ一切補茶は用
 ひさきとてさくやうに成さく知る
 一或同曰古方少産茶産後まか一切血
 小拍くわくといふるゆいん
 昔曰むかし妊娠を婦人の常あり病に産

婦よ茶と用ゆる事なり血を造化乃
 司にたり造化の目と人間の目と混じる
 身の腎人れなるあはれ故に血をかくは
 て療治するなり茶にといふるは漢乃
 右倉之專ら造化と人なるゆえに
 せしよるを療醫乃道絶するなりま五
 體の内なるもの相あり茶にと名付て血
 少といひたると名つきて水といひ皮膚小
 出ると汗といひ是造化の地なるゆいり

中よりして従ふにさるる中へんてかきまぬ
りたりと醫者の形にあらんは病のみ今
大なる血をいへ血脈と名づけけ血と書ふは
書ふはさるるいふりありと大なる血あり也
天地自然の事ゆへ何程あることそれ
拍りたりありしは吐血して死する者
亦大吐血し病毒と吐くは毒病にあり
ありと吐血血下血は病と名づけ
毒ありゆへなり吐毒薬ともてしは病毒

を飲まれば血を自解し止まるるはさるる
お血を吐く病治するはなりは病は毒を
いふるより毒益の産る産後金瘡と
て天下にともあつたは毒なりと書ふ余は
なるといふるなり又婦人此症候はるは人
事の中なるは人なりなりふありは人命
なりとて控へ世嗣乃子なりとてしかり
及んば皆造化の自然ゆへ人力の及ぶ不
ふありは彼来子方なりとてしかり

之後世陰陽家乃說りて其扁鵲仲景此
 二君之毒業として病毒と云はれ病を治す
 少人胎毒も潤ひ産も安く傷寒病金
 匱要畧婦人の病といふより皆後人の攪
 入たり用由りて其大の病とく天地自然
 ありや也産前も産後も瘡治す可
 くぬす知ん
 一或曰瘡醫を治す血を拍りて瘡
 治すと云ふり物も仲景吐血衄血

三黃瀉心湯芍朮膠艾湯等と用はる
 べし
 蓋曰吐血衄血と治し何と云ふも
 心胸の同く毒ありて悸するを治す
 吐血衄血もかきしに刺病めても俗ま
 けりしむくもいふや乃病從と兼も
 三黃瀉心湯めて治し又吐血衄血も心
 胸の同く毒ありて病入る用してハ業効
 一是として吐血衄血と治すと云ふも

ころ半休をふつ
 一或曰孔安子と姜と撒として食し
 多し曾指ハ多し姜を食し終ふは皆
 姜物なれハ毒あり
 曾曰姜と食との姜ぬらう物うそれらつ
 らぬぬけり姜もは攻のそあり食も
 姜のそあり攻もぬれきしし不拍
 と姜のぬれはそれきししにたごふた人
 を粥杯も姜カとたごるぬれきししぬ拍

強い用也姜のふくむし地と去也
 姜も姜に用也何とまふ人にも強
 て用也まふふ下の姜を病毒よあり
 合ふ吐深して病毒治れぬ地まふし
 乃物もまふくも食せぬたり孔安子
 の姜も指れ終皆好物し食し多しは
 去しぬれ毒ふたぬれぬあり
 一或曰汗多亡陽と汗多くぬれハ陽
 と亡して死するといふやあをいん

言曰たれよりなり是汗を造化の司りて
 出外よりなるなりある處を止めある人の
 あり向く事ふありん故陰陽醫者むく
 痛とれも信見也實事ふを合ぬなり
 余諸病と治する小汗の多かき拍りん
 痛毒の^{あついろ}止不^とん定^まま毒よ方^かつ^まを^そ療
 治する^ふ的^中より射^と大^ふ汗^し或^は吐^血
 或^は衄^血或^は下^血或^は汗^を穢^物を^吐
 たり事あり^る汗も血も穢物も出^る

修^りて止^まり^ぬ物^も彼^の病^毒お^もる
 時^は汗^も血^もその^は止^まり^て健^になる
 あり^るより^り病^毒よ^毒業^のあり^る心^に
 く^汗ある^也大^ふ汗^出れ^ば病^毒大^ふ減^と
 随^分汗^乃多^出る^は死^すなり^となり^しは^り
 後^世の^醫麻^黄少^汗と^榮一^汗汗^の出^れ
 八^傷を^亡して^死する^もつ^ひ是^汗と^止
 業^は汗^の拍^りあり^る大^ふ汗^出る^は
 あり^る汗^と業^は止^まり^ぬ時^は榮^も毒^も

醫學書或問 卷下

脈中小疎ツツしてツツ健ツツ小形ツツぬツツものたりツツこまツツきツツ
 たりツツ半ツツとツツ抑ツツりツツ之ツツ一ツツ前ツツ々ツツ南部ツツ廣ツツ京ツツ腫ツツ
 乃ツツ面ツツ色ツツ赤ツツ腫ツツ滿ツツとツツ患ツツ人ツツ余ツツをツツ診ツツ治ツツとツツ之ツツ小ツツ則ツツ
 之ツツとツツ診ツツとツツ之ツツ喘ツツ鳴ツツ迫ツツ息ツツしてツツ煩ツツ渴ツツ一ツツ小便ツツ
 色ツツ赤ツツ因ツツてツツ大ツツ青ツツ龍ツツ湯ツツとツツ之ツツとツツ用ツツひツツくツツ
 四ツツ十日ツツよりツツとツツ経ツツもツツ茶ツツ効ツツ下ツツくツツ南部ツツ
 のツツ門ツツ人ツツ在ツツたツツりツツりツツ之ツツ茶ツツ方ツツ此ツツ高ツツ否ツツとツツ診ツツふツツ
 余ツツ曰ツツ茶ツツ効ツツ乃ツツ速ツツ速ツツとツツ之ツツ方ツツ之ツツ能ツツ
 的ツツ中ツツでツツりツツとツツ教ツツ也ツツれツツもツツ程ツツ々ツツとツツ之ツツ色ツツありツツ

之ツツれツツもツツ之ツツ茶ツツとツツ用ツツひツツたツツるツツ病ツツ從ツツ小ツツ的ツツ中ツツ
 之ツツ方ツツありツツ故ツツ不ツツ然ツツ大ツツ劑ツツありツツてツツ用ツツひツツ之ツツ後ツツ
 二十ツツ日ツツよりツツ経ツツくツツ只ツツ今ツツ急ツツ變ツツありツツとツツ苦ツツ
 身ツツのツツ切ツツくツツ之ツツ茶ツツ之ツツ痛ツツ益ツツ劇ツツ惡ツツ寒ツツ感ツツ
 栗ツツ漉ツツくツツ之ツツ汗ツツ也ツツ今ツツもツツ汗ツツ余ツツとツツ之ツツ方ツツ
 亦ツツ因ツツてツツ之ツツ方ツツにツツ余ツツ曰ツツくツツよりツツけツツれツツたツツるツツ
 ぬツツすツツりツツ細ツツれツツもツツ茶ツツのツツくツツれツツくツツ眼ツツ眩ツツ
 之ツツれツツのツツ治ツツせツツぬツツものツツ也ツツといツツひツツ然ツツ又ツツ茶ツツ劑ツツ
 とツツ用ツツひツツ之ツツれツツのツツ後ツツ亦ツツ汗ツツ也ツツ夜ツツとツツありツツ

六七度たりると聖藥ふりり腫脹ちんぱん喘急治く小便便利とて後十日たりとて
常ふ湯とわくのびくちふ汗の出る病人
み波汗と察とれ死するといふ麻黄湯用
ゆしと湯と亡くして死する事如く汗を
自然よ止アそは使ふといふなり漢書曰
諺云有病不治常得中醫は徳を病氣
乃時醫共と察ふんといふとけへ中醫ふ
療治と察ふると同といふ事也中醫

といふと十に七と治といふてよまは次第り
は治ぬるてんは漢の時人病と治する
事ありといふ事して今世よわり病を治
とる事ありといふ事ありといふ規矩準繩きくくじゆんじゆ
なり陰陽乃理といふ教ふ人歴代各
見識あり今ふわりの醫とそふ人何
まはる事ありといふ事ありといふ事あり
といふ門ふ入り執りて療治とるなり
此の業あり汗多く出れば湯をいふ

死を仰ぐ推さくはるるをそのあらん
 一或曰曰生れく世より天性弱人あり又
 強と人ありきは強と人を汗吐下して
 病の治る半もつらん弱と人又老
 人なりハ汗吐下めばして死を仰ぐ
 いらん

吾曰老人小兒の壯年此人より弱きと
 天地の造りり病毒のれハ常に雲に起
 るくふとられてよるれを皆腹中め毒

ある也なりこ毒と毒されハ皆治るく
 なるそのありなりとさなりハ才十二章目
 ありく及老人一余教十年見老人小兒
 乃諸病と治るくいふく業毒とをえん
 志して死しなりハなりといふなりハおえん
 心より治るる余ハ門入るなりと云ハる人
 及は海とれとを無くかこき半なり
 一或曰曰上工治未病といふなり醫者ふを
 疾醫ふもあふなりいらん

嘗曰是疾醫れ終るらん今此陰陽醫ふて
之治未病といふ俗解し切らば又相生相
剋の義とりて解をたると肺の金肝を
木肺充とては金剋木とて肝木と剋して
肝と病しつらむと知りて肝のいふと病
さるるは肺と浮して肝と補ひ終れ病
しは肝も又ぬきにさるるなりといふ是に
よはひしては術も成事ありといふはなり
とさるるは又疫醫れ終るるといふは

却ての人病毒靜りてある時ハ毒形しと
なりふもの形りとも後とさるるは病毒乃
ある人多しと病毒動く時ハ百病と毒
氣然病志しつらむと靜りてある時病
毒と取まへ百病と毒とさるるはと
病とと治さるといふらん後世の説ふは
一或曰は先生は毒不偏鵠仲系も万病と一毒と
名はれといふり物に史記傷寒傳ふらん
とらん

昔曰古者扁鵲の薬方と漢乃仲景傳記と
 一と昔乃叔和撰次一と今の傷寒を編
 是なり彼撰次の何叔和より云々証加人をりり
 仲景の云々云々合するより云々云々一とこれ
 云々云々云々云々傷寒云々小柴胡湯主之中
 風云々小柴胡湯主之經水適斷熱入血室云々小柴
 胡湯主之有宿食云々小柴胡湯主之云々とりて
 是れハ傷寒も中風も癰血宿食も皆小柴胡
 湯云々治と云々云々云々云々云々一方

少く治せん胎胎苦液の毒よ小柴胡湯と
 云々云々治せん心家乃陰症皆治と云々とりて
 傷寒中風癰血宿食皆ハ後人の撰入なる
 事知る云々云々云々病因皆り云々云々
 薬方の加つて云々云々理云々んや支使病
 云々云々一つの毒あり云々云々毒神と百病と
 云々云々なり好云々方病云々小柴胡湯ハ病云々
 云々云々小柴胡湯と云々云々桂枝湯の病を
 云々云々桂枝湯と云々云々各云々病云々随云々

是と治とを仲系乃万病と治とるも一つは
 毒と同苗ふとる事明るを扁鵲曰病應見
 于大表是太表ふとるいふは太表にあつて
 少い少付の則後中は一毒ある事知し其
 毒動して万病と發せしは少りては陰痛
 と少し候ふありては腰痛と形し是にあり
 ては癩癧とてなりは歎ふ要万化わけと
 辨ふをいふは扁鵲仲系も万病一毒と
 見らる事明るなり故傷を偏金遺要略

乃銘少てハ万病治はは後人の摺入あり
 故なり扁鵲仲系の書り万病一毒れとと
 りて摺入と取舍とれは治せざる病あり病
 乃能治とるとして是れは扁鵲仲系乃言
 葉遠よりうたなり
 一或同曰古方とは仲系れ方とて今も
 控涎丹滾痰丸七宝丸等と用るとして是れ
 を古方と云ふといふん
 昔曰古方といふ世の唱なりけ方ハ病乃

能治と云ふは法とん方に古今如く唯驗効
 あると申すなり其れども後世には効効を
 方とくなく古昔のみは多きと申す古昔の方と
 多く用ゐたり是とて世上の人名つけて
 古方と唱ふ所を方ふ古今れは別あらんや
 一或曰仲景の治法と云ふに一病一方なり
 今桑湯ふ丸散と雜人用ゆらるる古くを
 けりといはん
 嘗曰吳よあはは傷を癒合遷みと大便

通せらるゆへ先酒胃氣湯とあはは便通
 なく後沈み随ふとく薬と申すは半あり
 古くはとていふるは身又名醫と云ふ病と能
 治する人れ名けり扁鵲乃名れ朽らるる能病
 と治しとて申すはとていふ扁鵲のたてとて
 るゆらるるも痛れ能治する半ありは治す
 申す能病治する所は則古乃名醫れとて
 通をれなり彼傷を癒合遷要器の如と
 願文も何れを撰入しありとて後歷代をてり

従ありて古人乃言試其良と書籍小派て
 も生瀝洲とゆわすあていふ所なり今九教
 を急用とすも病毒よく治す所あり
 然しあつぬらん

一或問曰毒といふ名目と云くは毒風寒
 暑濕燥火或は食物少て物くあつて是
 も因なり然るに因と偏をいふやいん
 昔曰く毒何の毒して行ふらつて物くあ
 つし何の因と偏と云くはものなり昔い

而及之ははは毒何ふらつて生じらや何り
 して物くといふ事人志は唯毒何とと
 視てく瘡治と云なり因は偏をいふと云
 とは胎なりは毒よく治療なりと云くは
 害と云なりあつぬらんは毒のたつた
 いふははあつぬらんは毒のたつた
 し理と云なりは人の力なりはあつぬらん
 後世乃醫ハ毒といふ理と云なりは毒
 物と云なり病と云なりは毒のたつた

肝と痛と見定て其方と受る事ありん
是は少は病同とつていふ事ありん
る人同証あるも其証なり固形
と之理なり唯空海理察めく道不審あり
少人吾黨めたいさるなり

一或曰目赤んぬすいん故は肺癰腸癰
振といふはいふなり振は毒も脈中
くんぬぬれ少人臆見小似なりいん
若曰肺癰と肺め癰と生く腸癰ハ腸ふ

癰と生るといふを臆見なり皆後中れり
少く知ぬ事なり毒も脈中乃事あり
いん是を後と振く毒のほくを候いん
毒の形状見ると其候ふあり故肺癰腸
癰も胸と肺乃候とんく胸痛臭氣甚くと
膿血と吐くると見く肺癰といひ腸れあり
少く痛と膿血乃ありとんそ腸癰といふ候
さるに害ありまうとんれも瘡治の助ふ
ぬりなり

一或問曰周禮醫師職歲終則稽其醫事以制其食十全為上十失一次之十失二次之十失三次之十失四為下としり是を凡れ古者より醫と正ただる病人乃生死ふく考ふ然るに醫者の生死と志るぬといふ事如何と

答曰周禮としり聖人の作といひしはしる人聖人の作といひしを教ふ年の乃まは捲入としりかとしりんと生死とせしめ



計りありん聖人も死生命ありしのみまは扁鵲も死せる人とせしめありしといふことして是まはせしめて上と下ととしりしるを聖人の言ふありしは内經より上と下に九と全といひしを死せる人の神農扁鵲もくも助るる事ありし人ありしはぬも病愈く治るる事ありし人ありしはらしといひしなり

一或問曰古方の瘡治ふく病治るる事ハ

迷たれども害成るる事多し人あり
いん

善曰人この事善し思ひ信仰し
随ふ時をまわし死するをわたり又
行くとおれぬことを善しんを
悪わたりかたきものなりと善しと
んと思つて善しとせんとんし
病めその知れし一せよふくち嘔吐脹満まん癆
瘵さい癩らい癩らい瘡そう啞あと世よ難治と

以て病人と百人療治して余ハ七八十人と治と
る一後世乃醫ハ百人の中十人と治と
中あつて是とせよと善しとせよ人し病
能治する時を何れ善しる半ありん
志する病を治せしむる善しる半後
こころを癒治の中は死しる病人乃
半ありん病を治せしむる死生
を造化の力をし醫者の力に及ぶ事
小ありん古者より十人あり九人治と

ととこといふ百人此中大抵十人死すといふ
天命のそとより人なりと彼後世の業方と病
毒よわくぬゆゑ瞑眩せよといふ人死して
業の害ふあつた心やうみ思ふべし又死
たぬ病を治して生かす心やうにゆゑんを
是と業乃効ふあつた心と病根と病を
して病の治して道程あつた人自然と病
毒静りて快楽あつたなりこれゆゑ人故り
漢よりりきつていふことまで毒動きてなく

病志ひるなり世ふと持病といふるんを
又持病といふ病あつた人病と治してゆゑ
いふゆゑ名つけらるなり又病醫いふ毒
乃病状と診て業証あつた人病根と抜き
ゆゑあつた業ぬきのなりいふゆゑいふ業
らぬやうにして病根動ゆゑ必業病毒
いふるを瞑眩といふ瞑眩と恐きて害と
ぬきといふと大病の得なりあつたといふ
あつた業の體と傷とのふあつた唯病毒よ

あつるものなりしを能く授て膿眩とれ病毒
減し之を格別健小形するものなり是を
して害のつりなれりとある人

一 或曰方意と得ざるを醫にあらんといふ
物も小風邪少く大熱し儻言するれば
紫園と用ひ又徳玉の人み紫園若英教書と
与人何病に用ひしは用也一といふかこれ
よく病院も及ばず試み人れんと書方乃
的中なりあらん

昔曰扁鵲仲景の法を病のよく治する術
なりとて人後世乃書方とせし病よく治する
時と則扁鵲仲景の法みかへり又扁鵲仲景の
用ひし方少くも今乃多く効をた方と取
つらん孔子も先王乃法めわらんも國をよ
きありし我も亦ふとらん也の終一
不法と守り或は書籍み流し人を術と得る
事ありしは亦あり是と馬服君らみ
いん彼不謂風邪めく大熱澹治と

ものふ此業因と用ゆれは吐深して治を知れ
 湯業に兼用とれふは志うたて用る故に
 歴代れ醫の傳ふ邪を表にあらと得て下
 利乃薬証用ゆれは業字に引きて邪氣表
 不入るとして流あを知るとも度く此業因
 と用してるに一人も邪をの薬ふ入るる
 形かこのむるに臆えの流を醫術小害あ
 こと害証陰んともある用ひては人々
 命ものけり又諸國乃らめあるるありと

も亦從て隨て湯業とあ丸散と兼用ふハ
 志うた物ととも諸國乃ら人々散ふのある事
 あらうるもの散んともと人々散り
 散ふ丸散とあるに皆効あを薬にもしも
 百病よりふ一つの毒よりけはるあはれと毒
 丸散あを舒くに減は急に用ゆれはゆる病毒
 是れ全散とらかりかくのうとく功乃る
 皆法ふ合るり病とく治るとして法とて
 一式同日世にいとあ病瘡病杯とてふ年と十年

も療治して治せざる病大く治して後
 更に治せざる大熱と察し瀉言妄治とるべしん
 言曰病治しざるにありは病毒を治せざるなり
 又大熱と察し瀉言妄治とるべしんを病毒と
 得しととれは其の察しざるなり

一或曰曰生記の十日二十日ふさひまらる大切なる
 病人少くは即切見人又尋常病病にくは即切
 人々さき中いん

言曰んて毒の動く時さき中いん

十日二十日のうらふ生記乃るかき程の病を
 痛毒十分ふ動てある速く素効人又
 尋常の病を病毒十分ふ動するゆえさき
 せん傷寒時疫痢疾吐血なんどをせせ
 大切ふ病人をあて速く令候とるなり
 建殊録さき人々其は初のありさるる
 毒の動く動するありと公候し
 一門人問曰病と治せざるを方のは師の傳る
 方さるりと實効ふ先生の教れとく毒乃

在りてとん受て方と處せしも治りかた
中人も病人先生も治と求ち先生も何方と處め
ふも病治とを治りしりし

答曰道とゆゑとゆゑとの

一又問曰先生多ふ二子と教ふ醫の學は
方乃しといひり物と一方のみに道とを
とゆゑなり物とん道とゆゑとゆゑと乃し
答とれた方の外も道ありといふん

答曰夫醫者と病と治りかたのなり病と治

とるは方ありと教ふ醫の學は方ありといふとれ
とを道とゆゑと人乃方とをさういふ地なりとい
物と一方の道ふよりして活動とをそのなり病と
乃とゆゑとゆゑとゆゑといふ夫道は行乃名也
た人の性本とする道のさういふ人の性本すれも
とを道とゆゑといふ性本とするゆ自由ありといふ道とゆ
とをいふゆゑ成さういふ療治とるり道とゆゑと
ゆゑとるはさふ遠しありといふ道とゆゑとるは
先生もふせ死といふの司りて人の司所よある

也人死をんとも方と書きて病若し目にて治する
けり方と書きて治する人の方につれ方と書きて治する
人を方と書きて治する方と書きて治する方と書きて治する
自由自在なる人として候ふことと書きて治物
なることと書きて治する

一又同回道と治する事如く候ふこと
答曰まこと一物と書きて余の物も治する事
と書きて一書に病唯一毒といふ事醫断
著しる事と院二十年とせり候ふれあり

候ふに病の唯一毒なる事と自れ候ふ
と書きて九年と書きて候ふことと書きて
春秋の毒の論ありと扁鵲乃傳よ越人之
為方也不待切脈望色聽聲寫形言病之
所在とありと傷寒論に傷寒に中風に色
宿食に癰血に皆小柴胡湯とありとあり
と書きて候ふ事皆一毒といふ事と書きて
醫断に候ふ事と書きて候ふことと書きて
候ふ事と書きて候ふ事と書きて候ふ事

心不疑い生し始つけらる方と病のそふきて
 用はるやあさうは遠く方と薬をたりこも方乃
 かつたに未一毒の治とけりあさうは是れなり
 く古と病て方意と探療治ふ解習し自解乃
 かく方と扱しこもるあさうは病の治る中
 格別なり病乃能治るる小過く一毒の術と
 向ふ治るるこも疑ひを治るるは知らる道は
 治るるるあさうは是とる治るるこもん

醫事或問下終

医事或問跋

此書之系若黎及性者及陰を
 集天下男女也と司事お女の書し
 も海しおる武我を治るる病者
 乃あと此の女子もあさうは彼がれ
 をるる更よ此の書は其の國小る我
 起一あめふに治るる飛治るる也

一也の在る人王ふりて思ひ
 あや一也の思ひを一葉の思ひ
 聖人乃乃おそ私を福と甘小治し
 かこまといふ痛もおしくかふを死せり
 見え一え忽尔種生れはる海聖の御
 結すたりかあしく妙あるまちく目身
 とるをましく思ひて思えかれを四邦人おの

翁を去る好ある程をいかに
 市改かき案さ教を異流乃人多あはぬ
 さ満よりひらぬ一葉に長秋筆し世よ
 うに思ふせもあはぬ人思ふに
 海と都と心と思ふ人も信とあはぬ
 毛とよりその侍頭を思ふはあはぬ
 秋の御代元はしく病小苦あるを

平安 斯文堂藏書目錄
 二條通御幸町西八
 林宗兵衛
 世說新語補訂正 二冊
 老子經正文 一冊
 唐名花詩集 四冊
 唐朝詠物詩選 一冊
 歷朝詠物詩選 八冊
 歲旦詩作例 一冊
 歲旦詩集 一冊
 吉齋漫錄 末刻
 讀書詩帖 四冊
 海籌集 一冊
 菅家方葉集 二冊
 增補萬病回春 八冊
 博古印譜 二冊
 文體明辨粹抄 四冊
 古文折義雋 二冊
 古今文則 四冊
 作文初問 一冊
 初學作文法 二冊
 音例 一冊
 靜齋文集 四冊
 古文後集 二冊
 古文後集 二冊
 四書集註 十冊
 四書集註 十冊
 尺牘青錢 一冊
 尺牘青錢 一冊
 王義之尺牘 末刻
 王義之尺牘 末刻
 汪道昆尺牘 一冊
 漢魏詩集 一冊
 古樂苑 末刻
 古樂苑 末刻
 古樂苑抄 三冊
 葛陂杜集 三冊
 靜齋學論語註 三冊

平安 斯文堂藏書目錄

二條通御幸町西八 林宗兵衛

定本十七帖 王羲之書名刻 一冊 四書集註 中島先生改點 十冊 世說新語補訂正 二冊

鷺群帖 王獻之書名刻 一冊 古文後集 中島先生改點 二冊 老子經正文 大鹿先生訓點 一冊

劉熙釋名 四冊 靜齋文集 齊第五石齋門 四冊 唐名花詩集 東涯先生考訂 四冊

尺牘青錢 明九霞 一冊 音例 靜齋先生口占 一冊 唐朝詠物詩選 一冊

王義之尺牘 末刻 初學作文法 靜齋先生著 二冊 歷朝詠物詩選 八冊

汪道昆尺牘 明王南溟 一冊 作文初問 周南先生著 一冊 歲旦詩作例 自漢魏至明諸名家 一冊

漢魏詩集 一冊 古今文則 近刻 四冊 歲旦詩集 和歌諸名家新作 一冊

古樂苑 末刻 古文折義雋 金龍道人撰 二冊 吉齋漫錄 末刻

古樂苑抄 祖山先生考訂 三冊 文體明辨粹抄 四冊 讀書詩帖 烏石山人行書 四冊

葛陂杜集 高嘉石齋門 三冊 博古印譜 亞岳山人篆刻 二冊 海籌集 明諸名家詩集 一冊

靜齋學論語註 大鹿先生著 三冊 增補萬病回春 八冊 菅家方葉集 二冊

醫斷	吉益門人著 一冊	醫學止傳論	二冊	古今助辭分類	一冊
方極	吉益先生著 一冊	三焦營衛論	一冊	拾遺和歌集	二冊
類聚方	同 一冊	本邦名醫類案	五冊	拋入花湯	二冊
醫事或問	同 二冊	外科訓蒙圖彙	二冊	同後編	二冊
藥微	同 三冊	伏見伊良子先生著 金創秘授	二冊	絢布裁要	二冊
醫事古言	同 末刺	白水田良著傷寒論 金匱要略	一冊	同後編	二冊
醫方分量考	同 末刺	劉氏家言	三冊	醫者談	一冊
建殊錄	吉益先生醫方考 門人錄 一冊	復古傷寒論微	四冊	實語教	一冊
方極國字解	一冊	藥方小成	折本	筆少指南	一冊
屬文換字	藍田先生著 詠文書 一冊	傷寒論微辭辨	六冊	辨斥醫斷	一冊
歐陽詢真跡	盤志經 一帖	骨尺	折本	古方要	一冊
假寐並方	小崎居士著 六冊	疫論	四冊	同門人 桃井安貞著	折本



Handwritten text at the bottom left of the page, possibly a title or note.

